

「何でも見てやろう」を読んで海外武者修行を！

近藤 節夫

『何でも見てやろう』（小田実／講談社）

今も読者のハートを熱くさせる武者修行記である。若かった小田実が外国で精一杯魂と身体をぶつけた行動録だ。何よりひとりで怖い者知らずに行動するところが好い。私も本書に背を押され、半世紀以上も海外武者修行を続けてきた。激しい戦火の最前線へ飛び込んで、軍隊や警察に身柄を拘束されもした。それでも身一つで体当たりしたからこそ臨場感で真実、本物が分かるようになった。口先ばかりで現場へ行かない人間は信用できない。